

資料紹介

江戸川乱歩書き入れ旧蔵書

William Irish. *Deadline at dawn* (ウイリアム・アイリッシュ『暁の死線』)

米山大樹

乱歩旧蔵書 William Irish. *Deadline at dawn* (ウイリアム・アイリッシュ『暁の死線』)の軍隊版ペーパーバックに鉛筆で記されたメモを紹介する。

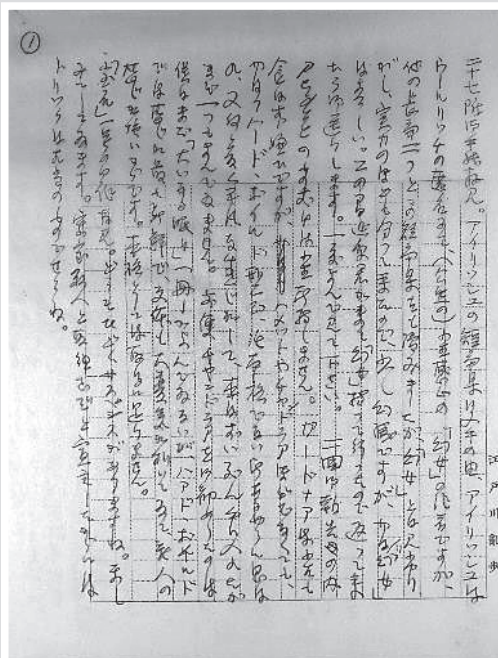
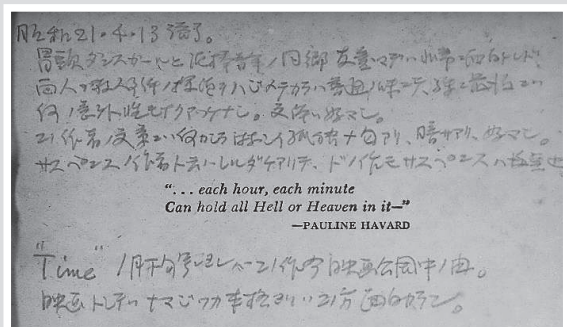
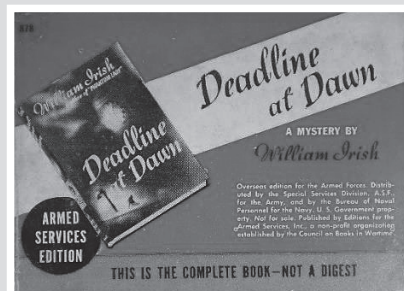
昭和21・4・13読了。／冒頭ダンスガールと泥棒青年ノ同郷友愛マデハ非常二面白ケレド、兩人ガ殺人事件ノ探偵ヲハジメテカラハ普通ノ味ニテ、殊ニ最後ニハ何ノ意外性モナクアツケナシ。文体ハ好マシ。／コノ作者ノ文章ニハ何カシラ淋シイ孤独ナ匂アリ、暗サアリ、好マシ。サスペンスノ作者ト云ハレルダケアリテ、ドノ作モサスペンスハ極点也。／"Time" 1月下旬号ニヨレバコノ作今映画公開中ノ由。映画トシテハナマジツカ本格ヨリハコノ方面白カラン。

CIE図書館でコーネル・ウールリツチに惹かれた乱歩は、アイリッシュの名義の *Phantom Lady* (『幻の女』) を読むと、ペーパーバックの見返しに「新

しき探偵小説現はれたり。世界十傑に値す」と書きつけ、自身で翻訳を試みるほどに心酔した。しかし乱歩は横溝正史に宛てた書簡で「アイリッシュはウールリツチの匿名にて、(公然の)小生感心「幻女」の作家ですが、他の長篇二つとこの短篇集をも読みました

が、「幻女」とは見劣りがし、実力のほとんど分つて来たので、少し幻滅です」と伝えている。そして「フダニット随想」(『ぶろふいる』一九四六・七)では「今は少し熱がさめて「十傑」といふほどには考えてゐない」と、*Phantom Lady* の評価さえ改めた。

*Deadline at dawn* への書き入れは乱歩の「幻滅」の痕跡だ。しかしアイリッシュの文章に「孤独な匂」と「暗サ」を感じ、それを好ましいとする読後感からは、*Phantom Lady* の作者というだけなく「サスペンスノ作者」としてアイリッシュの特性を捉えなおす姿が窺える。(立教大学日本学研究所研究員)



江戸川乱歩発横溝正史宛書簡控(部分) (1946/5/3記、「発書簡控 昭和21年5月3日～31日」寄託資料)

(上) William Irish. *Deadline at dawn* (Armed services editions, c1944) 立教大学図書館蔵 表紙 (下) p.3 (部分)